

平成 27 年度第 10 回松阪市立鎌田中学校校舎改築事業基本計画等策定委員会会議録

日 時 平成 28 年 3 月 1 日 (火)
午後 6 時 00 分 開始
午後 8 時 00 分 終了
場 所 鎌田中学校 1 階会議室

出席委員

委員長	小 松 尚
副委員長	高 橋 秀 敏
委員 (代理者)	山 本 嘉
委員	平 生 尚 美
委員	鈴 木 逸 郎
委員	岩 田 雅 昭
委員	橋 爪 敏 昭

事務局

教育施設マネジメント室主査	池 内 正 樹
株式会社 都市研究所スペース	浅 野 健
取締役 計画室長	
株式会社 都市研究所スペース	田 中 清 之
嘱託研究員	

【内 容】

1. 基本計画 (案) の取りまとめ
2. その他

(第 9 回基本計画等策定委員会会議録について)

事務局

ただいまより、第 10 回松阪市立鎌田中学校校舎改築事業基本計画等策定委員会を始めさせていただきます。

まず、最初に今回の開催通知とともに配布しています前回 2 月 2 日に開催した第 9 回基本計画等策定委員会の議事録について、内容について特に問題が無ければ決定しますが、修正等はありませんでしょうか。

(意見等特になし。)

それでは議事録についての確認を終了させていただき、進行について委員長よろしく願いいたします。

委員長



それでは協議に入りたいと思います。

本日最終回ということで、1 年間意見を出し合ってきました基本構想、基本計画の案の取りまとめを行いたいと思います。

まず資料の確認ですが、①基本構想(案)及び基本計画(案)については、今まで議論してきたイメージ図を説明できるように文書化したものです。それと、②A3 版の 2 枚の資料については、前回策定委員会で議論し修正を加えた基本計画イメージと、もう一つはいただいた意見を膨らまし、また説明がしやすい内容構成に事務局とさらに検討を加えたものです。③新校舎計画面積表については、校舎全体規模を 6,000 m²程度に設定し、その中で各室の設定をしていますが、各部屋の面積については基本設計時の検討課題となりますので、現段階ではあまり数値にとらわれないで教育上必要な部屋が漏れていないかについて、学校側に確認をいただいているところです。

については、本日、基本構想(案)及び基本計画(案)の文章や内容の確認と、イメージの修正について議論をいただき、完成させたいと考えています。

まず基本構想(案)については、昨年 7 月 26 日に開催した第 1 回ワークショップ(以下「WS」)での意見等により作成した基本構想(案)イメージを基に、以後議論を重ねてきたイメージを文章化したもので、10 月ごろより本質的にはほとんど変わっていません。全体テーマについては、キャッチフレーズを「(かぎかっこ) つきの「あい」あふれる鎌中」と仮設定していました。については 12 月 6 日開催の第 2 回 WS の中で生徒グループに再提案を求めましたが、この仮キャッチフレーズを

	<p>超えるアイデアがなかったように思います。そこで、事務局側としては、当初案の“「あい」あふれる鎌中”をキャッチフレーズに決定し、様々な思いが詰まった「あい」をキーワードとして活動の柱に持っていきたいと考えています。</p> <p>次に、基本構想（案）について説明をし、確認させていただきます。</p> <p>（基本構想案の説明）</p> <p>活動・体制の柱</p> <p>1 活動</p> <p>①学び「あい」、②関わり「あい」、③守り「あい」</p> <p>2 体制</p> <p>④拠点づくり、⑤実行の場づくり</p> <p>3 ハード</p> <p>①～⑤に掲げた活動・体制を支える空間・設備を整備</p> <p>※約 10 分程度 自由討議。</p> <p>・説明文中、「生徒」だけではなく、「児童」も付け加え、小中連携といった統一感を出してはどうか。</p> <p>・“守り「あい」”について、学校は防災拠点といった役割を兼ねているので、守りあい支えあう学校づくりだけでなく、地域防災、防犯といった観点を含め、「地域の安全安心」を付け加えた学校づくりに拡充してはどうか。</p> <p>・学区区について、松阪地域ではあまり「学区」と聞かないが、「〇〇小（中）学区区」か「〇〇小（中）校区」かどちらがいいか→普段聞きなれた「〇〇小（中）校区」で統一表示とする。</p>
(主な意見等)	
委員長	<p>次に、基本計画（案）についてイメージ図を基に説明させていただきます。</p> <p>新しい鎌中校舎では、基本構想に掲げた理念や活動・体制の柱を踏まえ、隣接する第四小学校や地域との連続性にも配慮した校舎づくりをめざし、</p> <p>①学校・教育における基本的な「学校専用：スクール・ゾーン」、</p> <p>②コミュニティ・スクールを支える地域の活動拠点として必要な「地域専用：コミュニティ・ゾーン」、</p> <p>③従来は学校専用だったスペースを地域に積極的に開放して</p>

いくため、さらには生徒、教職員、地域住民のニーズを踏まえて新たなスペースも配置し学校と地域の連携を深めるための「学校地域共用：コラボレーション・ゾーン」、

以上、3つのゾーンを設定します。

さらに、建物の内部と外や建物内の各スペースを有機的に結び付けるような配置とするため、象徴的な空間として「カマチュウ・ストリート」と提案し、基本計画の軸として設定したいと考えます。

前回の策定委員会では、学校地域共用ゾーンに特別教室からなる「クリエイション・センター」と図書室を核にした「メディア・センター」を設定していました。“センター”という言葉からは人を集める求心性（内向き）が強く感じられますが、コミュニティ・スクールとしては、地域との協働により学校から情報を発信していくといったスクール・コミュニティといった新たな視点もあり、外部への広がりや気軽に行き来ができるといった“ストリート（道）”としてのイメージがこの鎌田中学校には適しているのではないかと考え提案しています。学校専用⇔共用⇔地域専用ゾーンを串刺し、各スペースに関わり、全体をつなぐ軸として定義しています。なお、「カマチュウ・ストリート」という名称については、少し楽しい雰囲気醸し出したいと思ってこういう名称を考えてみましたが、これについては後にご意見等いただきたいと思えます。

次に、空間構成の設定について説明をいたします。

従来の学校にある機能をより有効に利用でき、複数の教科や地域活動で共用でき、人数や規模によって広く使え、日々進化するICTも使い学校教育や地域活動を進めていくスペースとして、空間構成を整理します。

1 「カマチュウ・ストリート」

鎌中内の各スペース、第四小、地域をつなぐ

- ①「メディアスペース」
- ②「展示スペース」

2 コラボレーション・ゾーン

（「学びあい」「関わりあい」「守りあい」のスペース）

- ①「科学技術スペース」「生活スペース」「芸術スペース」
- ②「中庭」「運動スペース」「交流スペース」「校庭」

(主な意見等)	<p style="color: red;">3 スクール・ゾーン (「学びあい」「守りあい」のスペース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「学習スペース」 ②「多目的スペース」 ③「学校管理スペース」 ④「ケアスペース」 ⑤「駐車場・駐輪場」 <p style="color: red;">4 コミュニティ・ゾーン (「関わりあい」「守りあい」のスペース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「郷土文化スペース」 ②「地域サロン」 ③「地域活動拠点」 ④「地域交流コーナー」 ⑤「駐車場・駐輪場」 <p>最後に、基本構想、基本計画を実現しつつ、学校建築として基本的に備えておくべき事項について整理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生徒の充実した学習や学校生活、教職員にとって働きやすい職場としての空間づくり ②省エネ、低炭素化対応（エコ・スクール） ③建物の長寿命化、ランニングコストの抑制 ④ユニバーサルデザイン対応 ⑤地震、浸水、火災（延焼）への対策 ⑥建物および屋外空間のトータルな景観形成 ⑦将来の少子化に伴うクラス数減少への柔軟かつ有効な対応可能性 <p>以上、7項目を検討すべき事項として示しています。 それでは意見等をお願いいたします。</p> <p style="color: red;">※約 40 分程度 自由討議。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで検討してきた基本計画（案）イメージ図を順に見ていくと、新しく建設する校舎のイメージがよりしやすく感じる。 ・各部屋（室）を並べたようなイメージ図だと初めて見る方には新校舎の内部が理解しやすいが、発想が広がらず、従来の考え方から抜け出せなくなる。四角から円形エリアでやや抽象的
---------	--

	<p>に表現することで、発想が豊かになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築だけでなく、日々身体がふれる家具にもこだわりたい。身体への負担が軽減されるデザインのもの、そこに居たくなるような家具。効果としてリラックス感が得られ、学習意欲や集中力の向上が見込めるのではないかと考える。 ・学校周囲への建築的な景観配慮や、砂埃対策といったこと。公園機能として花壇や学校としては桜並木なども。 ・「ストリート」と名付けられた空間では、気軽に手に取れる図書棚やショーケースにディスプレイされた将来授業で使う理科実験器具や技術・家庭科機器、又は、郷土資料等など、ウィンドウショッピングをするように学習に対するワクワク感を生み出し、いきいきとした活動や生活の様子が垣間見えるようにしたい。そうなると地域からも親近感がわき、利用しやすいのでは。 ・ストリートとゾーニングの考え方は、まちづくり活性化などの商店街のお店配置に通ずるのでは。魅力ある通りの設定やお店配置やエリア設定が街を活性化させるように。
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今日いただきました意見等踏まえ最終修正をしていきますが、これら資料を基に地域の意見を伺っていただけますか。</p>
委員	<p>3月9日に改築推進委員会を予定していますので、意見を伺います。いただいた意見は週末までに会議録として取りまとめ、報告させていただきます。</p>
委員長	<p>3月中旬には最終取りまとめをし、決定させていただきます。1年間ありがとうございました。</p>
事務局 (確認事項)	<p>最後に、 第10回基本計画等策定委員会会議録の作成、及び、基本構想(案)及び基本計画(案)については、事務局で修正後、小松委員長の確認をいただき決定とすることを事前に了解を得る。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>